

寫眞週報

情報編輯局
三月八日 第三百二十號

陸軍記念日



元寇の時も 日清 日露の時も

われらが祖先は 國難來ると雄叫び起

耳を澄ませ いま同じ血潮が 高鳴り呼ぶ

國難來る

撃ちてししまむ

「時の立札」は他へ轉載との他に印刷用下書き



第三十九回

陸軍記念日を迎ふ

思ふ、四十年前——
旅順二〇三高地目指して
吠した決死隊の玉碎相次ぎ、
國民は悲憤に咽びつゝも、ひ
たすら忍苦、唇を噛んで待つ
た、待った。遂に壘壕は屍で
埋まり、その上を進んで日章
旗は旅順に懸へつた。疾風怒
濤、かくて皇軍は三月十日、
奉天に最後の止めを刺したの
だった。

今クエゼリン、ルオット兩
島の守備部隊、全員戦死の悲
報を受く

散華した殉國勇士の靈に決
戦一途の生活をもつて誓はう
國難に甦起した父祖の血は、
われら一億の心身に漲るのだ
その傳來の嚴固たる決意を
以て、更に征かん。神州に爪
牙を伸ばす醜虜何ものぞ
撃ちてしままんのみ

軍人に限らるる勳章を聲を限りに擁護する
仙臺陸軍幼年學校生徒



向く軍神 陸軍部部長の像。魂は遺跡とともに母校に留まつてゐるのであらうか。生徒は後継いで若き血を流げんと誓ひたつてゐる

頼りまざる勇と慕はれる校長は、今日も朝の禮拝を導くやうな生徒とともに、東北興元〇〇を率ゐて立つこの氣魂が若人を導く



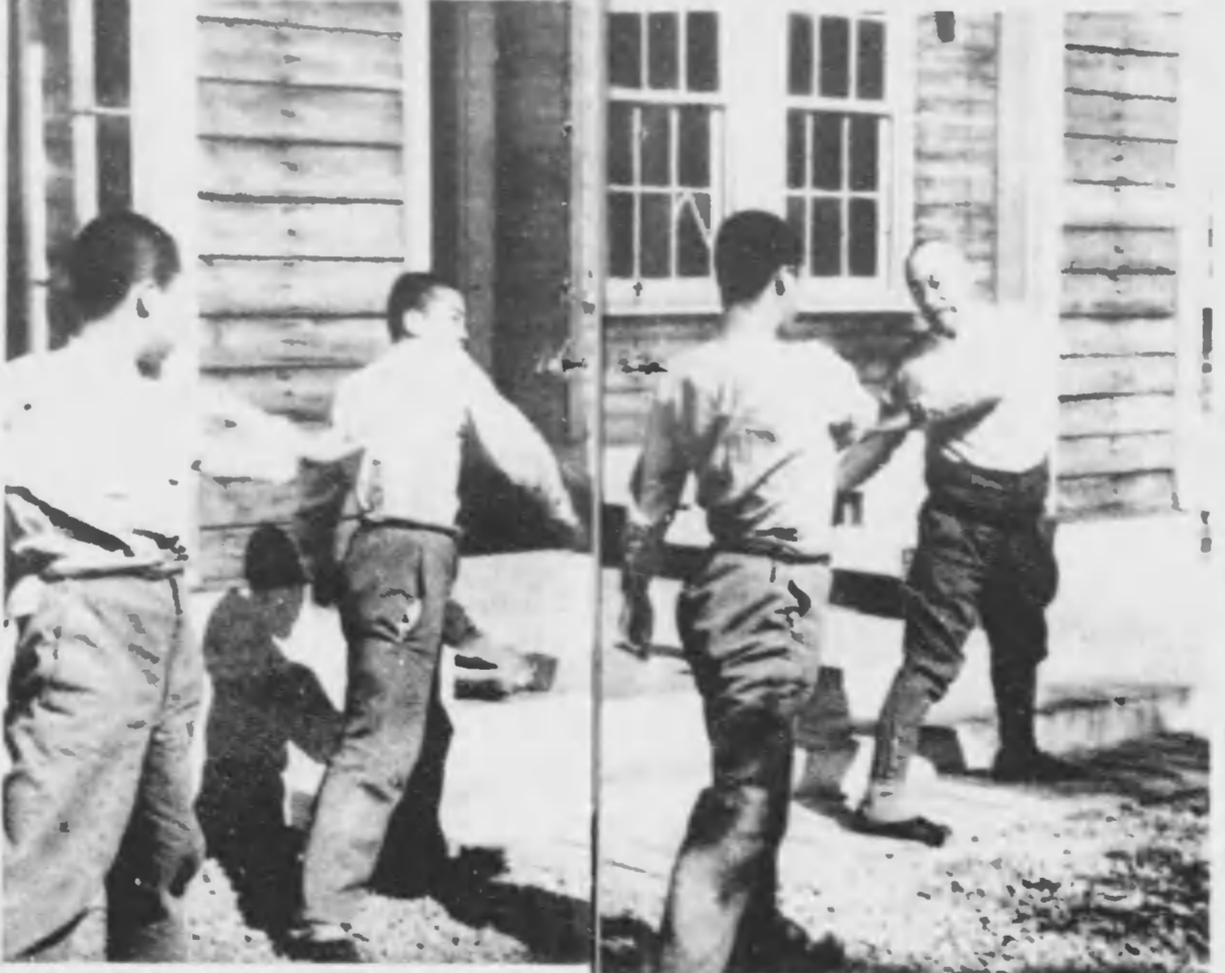
實物を手にとつてのひとびとで飲まれる生徒の若く素直な顔は決戦の對戦をびんと感じとる。科學にも勝たねばならぬから



幼少年學校生徒の燃つた血

精進の途 陸軍の血

遠い故郷の父と母よ、安らかにおはせ、英敵はわれが斬じて滅します故、とあけやらぬ願に誓ふ生徒の決意は日に固い



肉體相搏つ壯絶な神倒しのうちに、軍刀一閃敵陣へ突込む指揮官の姿は、轟軍傳統の華を止まらぬ魂が現れるの光



★幼少年學校精神 教育總監部

南滿洲の孤島上、六千五百の守備隊を散らす。一
位同島の憤激正に頂點に達したとき、東京、仙臺、名古屋
大阪、廣島及び熊本各幼少年學校には、幼い生徒達が黙
黙として修養に、勉強に精進してゐる彼等の幼い胸もま
た、先輩の忠告に對する憤慨と、悲憤と、決意とに沸き
たつてゐるのだ

全國津々浦々の少年達は學つてこの幼少年學校に憧れの
眼を集中してゐる。しかし幼少年生徒は謙遜眞實な精神を
續けてゐる。彼等は、彼等の先輩の如く、將來、或ひは
兵團長として三軍を指揮し、或ひは惟獨に參じて深謀を
めぐらし、或ひは第一線隊長として率先陣頭に立ち、各
各皇軍の精進として奉公すべき日を期して今日一日を精
進してゐるのだ

幼少年生徒は學業上、限りなき御執事をなしてゐる。
良くも、明治天皇におかせられては、明治四十一年、特
從武官訓練の上、
陸軍幼少年學校生徒ハ將來國軍ノ領袖トナルヘキモノ
ナリ故ニ其志操堅固品性高潔學術優秀ナルヲ要ス
之ヲ以テ幼少年學校生徒ノ性情並ニ教育ニ就キテ
陸下ノ當ニ御心ヲ留メサセラルトコトナリ
との有難い聖旨を賜はつたのである

この大御心、この感涙、既に生も無い、死も無い只よ
一途に己が自分の忠節を盡して、大御心に應へ奉らんと
する誠心こそ、幼少年學校精神の根幹であり、眞體である
大元帥陛下の股肱たる光榮に感激し、將來皇軍を双肩に
擔ふべき責任を自覺し、義は山嶽よりも高く死は鴻毛よ
りも軽しとする死生觀に徹せんとし、只修養に、學術
科練成に、精進する眞實なる努力こそ幼少年學校精神の眞
體である。剛壯勇健、如何なる困苦にも屈せず。寛容大
度、一抔の功利をも損はず氣宇廣大、淡々として氣節に
生き、情眼に篤く、喜んで命令に服従す。これ幼少年學校
精神の精華である

かくしてこの精神は、他日或ひは三軍を指揮して全軍
の勝敗を決すべき統帥道と發展し、或ひは洋上の孤島に
神洲の正氣を發揮する玉碎精神と進歩し、或ひは率先陣
頭に挺身する隊長精神ともなるのである

彼等幼少年生徒は十三歳乃至十五歳の全國英才中より採
用される。全國六校において三年間教育を受けたいで指
つて豫科士官學校に入校し、ここで歩、騎、砲、工、航
空兵は航空士官學校に、その他は士官學校に進んで、青
年將校たるべき修養を完成する。士官學校を卒業するや
直ちに見習士官となり、間もなく陸軍少尉に任官する。
かくて精進の熱血を沸騰させつゝ、各々大東亞各地の戦場
に馳せ参るのである

もとより忠貞報國の至徳には地位もない、階級もない
名譽もない。陸軍幼少年學校教育の目的は將校たるに
必要な徳操を涵養するに在つて

『國體ヲ明徴ニシ皇皇愛國ノ心情ヲ養成スル』を以て第
一となす

彼等幼少年生徒は少尉となれば少尉として奉公に徹する
三軍を指揮する中將帥としての精進に徹する。かくの如
く與へられた任務を完遂する所、即ち國軍の精進であり
幼少年學校精神は發揮せられたものといふべきである

こゝにおいて、全國の、優秀なる少年達が學つて幼年
學校に入り、學つてこの精神を鍛練し、これを完成し、
これを發揮するときこそ、皇軍は磐石であり皇國愈々隆
昌に赴き強國の目的は期せずして達成されるのである

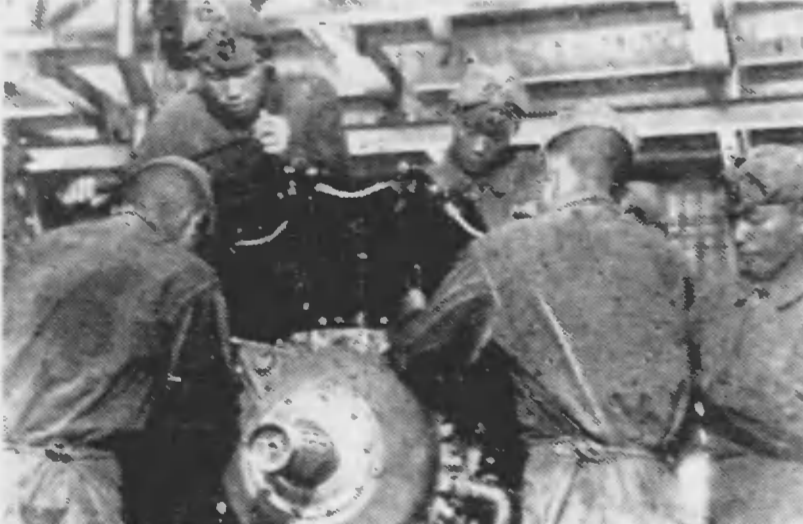
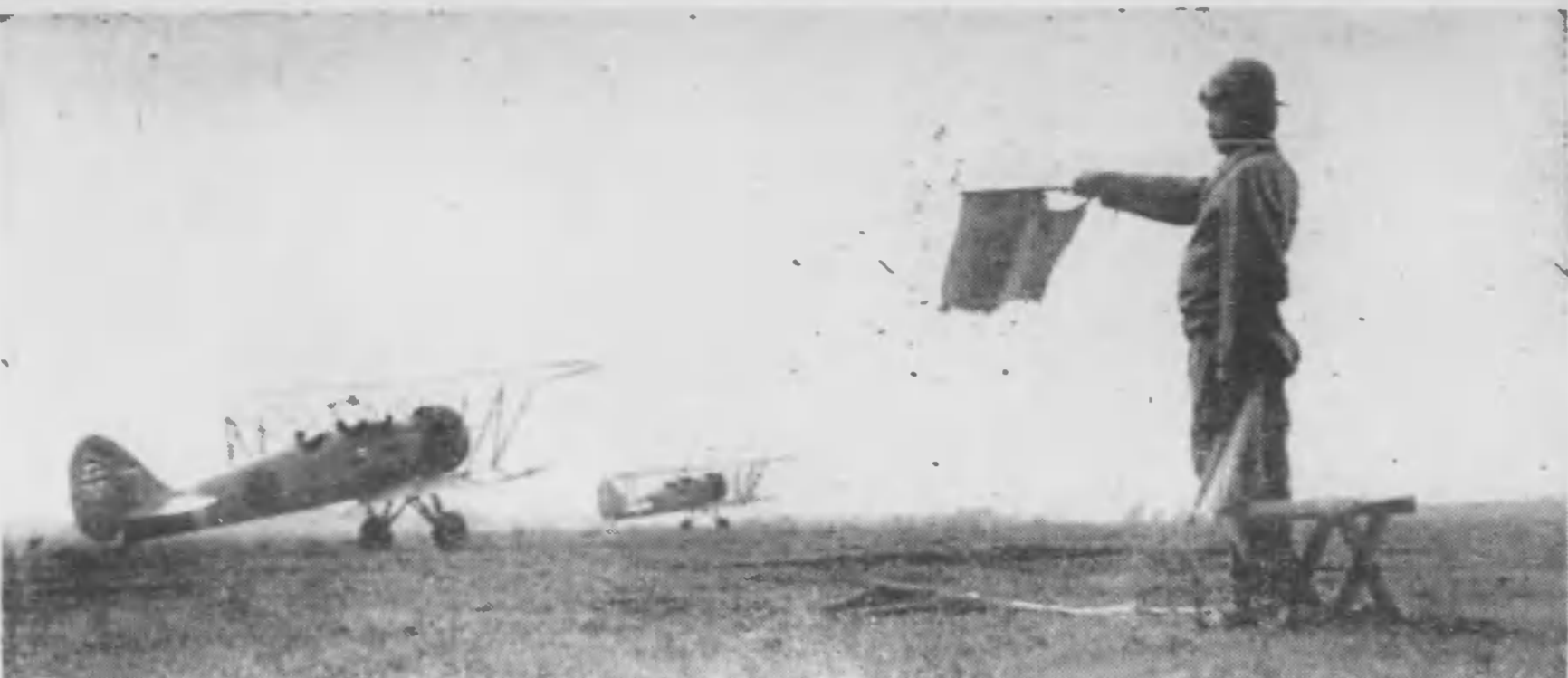
父祖の血に 燃えつゝ 精進一途の 陸軍少年兵



「えいっ」
大を吐いて叫ぶ雄鷲。重れ纏つ創傷の中に、
機雷の烈々たる閃光が映へられる。

「美しい心身で決戦に勝つぞ。明日の陸軍航空隊を成す少年飛行兵の肩が、胸が、もろりと揺動する」

まづ帝國軍人となることだ。基礎の軍事學を教壇だけで、飛行機にのらなくとも、一年は夢のやうに短い



東京陸軍少年飛行兵學校

少年飛行兵の輩は少年飛行兵である。大空をまじと叩いて敵機を叩き落す愉快こそは、日本男子の夙願である。これらの若輩は、東京と大津の陸軍少年飛行兵學校で育まれる。輝く陸軍航空隊の中堅となるために、一年間に軍人精神を習得し航空の基礎となる諸種の軍事學や普通學を習ひ、どんな難しい任務にも堪へられる心身を鍛へ上げる。

操縦にゆくものは陸軍飛行學校へ……
通信にゆくものは陸軍通信學校へ……

通信は水戸の陸軍航空通信學校へ入り、まづ「トーター」で世間話が出来る位にならねば、無線通信機の故障もその場で修理できるやう構造や學理を身につける。整備は所澤や岐阜にある陸軍航空整備學校に入り、一機に部品が三十万點もあつて、見ただけでは一寸見當もつかぬ飛行機を瞬くうちに修理して、飛行機を飛び立てるまでになる。

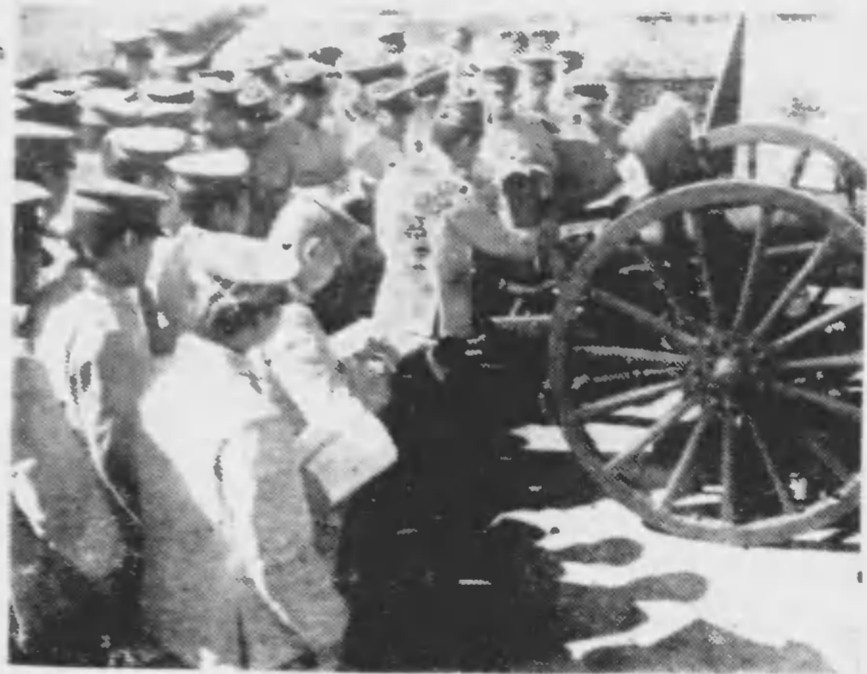
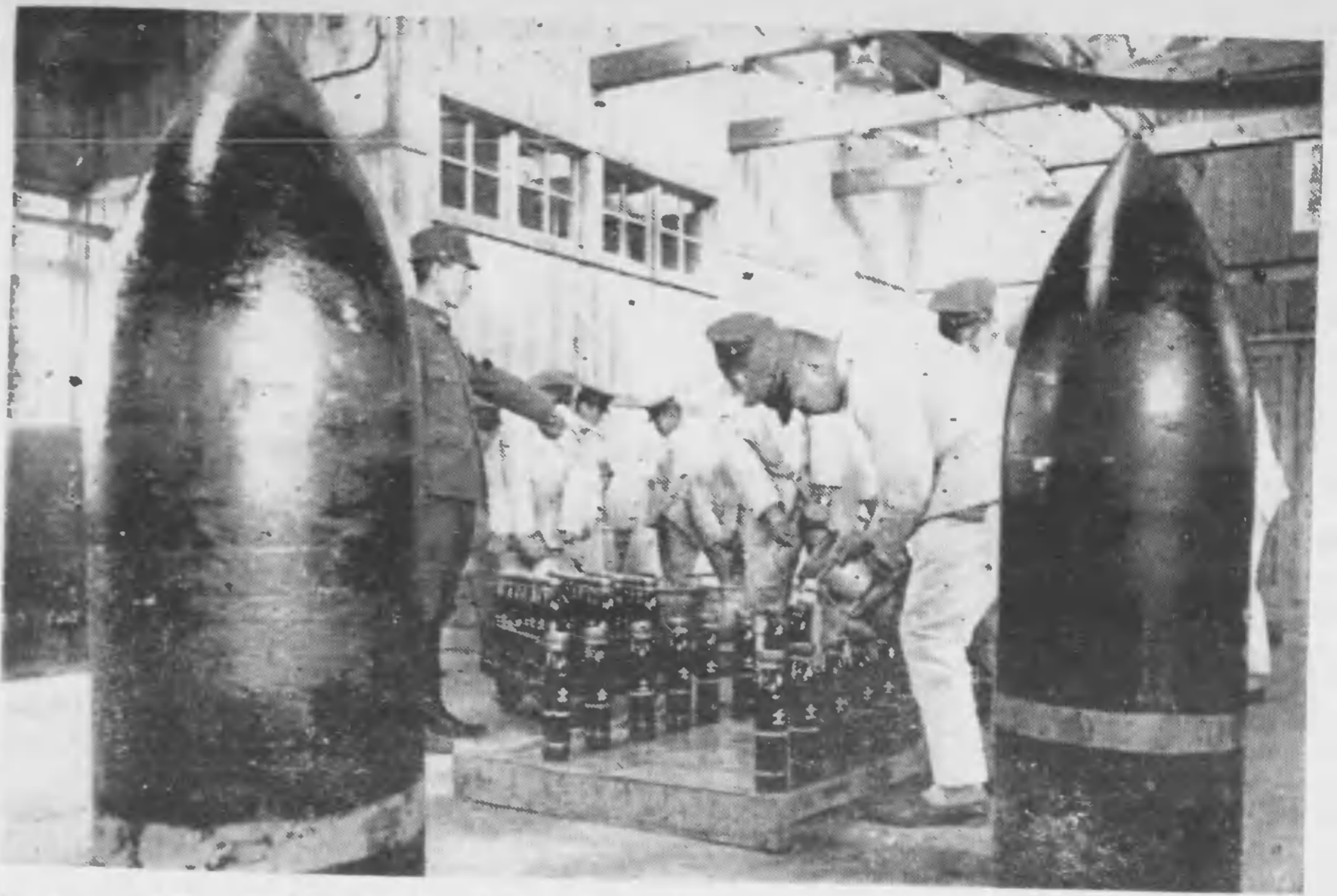
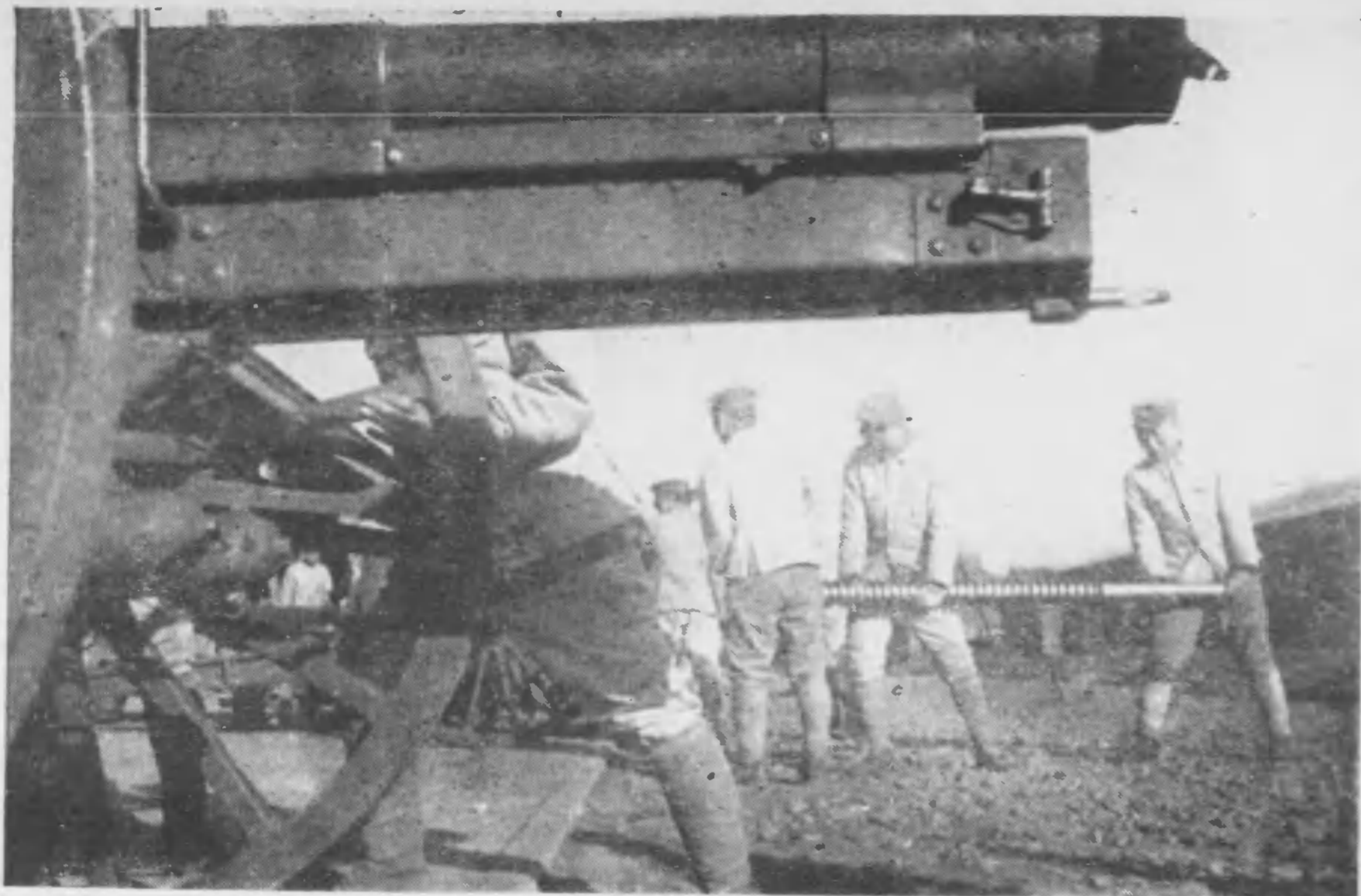
を考へ、操縦、通信、整備の三分科に分れる。操縦は熊谷陸軍飛行學校、宇都宮陸軍飛行學校などに入り、飛行機の構造から始まり、氣象學などを修めてから、いよいよ憧れの同乗飛行を許され、やがて實用機の單獨

少年の期 兵の待省

三月十日は第三十九回陸軍記念日である。我々は四十年前、寒風吹き荒ぶ北滿の曠野に強敵露軍を撃滅し、皇國隆昌の基礎を確立された先人の偉業に對し、深甚の謝意を表するものである。

爾來星霜四十年、發展に發展を遂げた皇國は、今や八紘爲宇の大理想の下、大東亞聖戰の完遂のため總力を挙げて前進してゐるのであるが、敵米英もまた日本に時を與へることの不利を悟り、必死の進攻を企て、懐槍苛烈なる武力戦はあらゆる人智の精を集め、いよいよ熾烈に、いよいよ大規模に戦はれ、中國は今や降参を決せんとするの重大時機に臨んでゐる。しかしてこの熾烈なる武力決戦に勝ち抜いてこそ、大東亞戰爭における赫々たる終局の勝利を望み得るのである。

近代戰の作戰規模の立體的擴大と戰術方式の科學的複雑化とは、果敢不屈の闘魂と、至妙精熟の技術とを裝備した多数かつ優秀な皇軍幹部を要望すること極めて大となり、以來、皇軍幹部に對して



兵年少軍陸の途一進精



我が国が誇るべき兵器は一體とらざるか。兵隊學校で育て上げられた兵器の軍醫さん。が時をもちに先づ兵器の精進。唯能に精通しなればならぬ。火工。電工。鍛冶。木工。校下の五工科に分れて、専門の教官に手をとって教へられてゆく少年兵隊が。そして修理部の中。黙然として待つ。電機子のエンジン。を復元させ。傷つき沈んだ火砲を修復して。一戦必中の巨砲を敵陣に存在たしこませるのだ。

「少年兵隊の道」ことかされた。二階堂が手際よく早くこなされてゆく。

は精神的に、肉體的に、はたまた充實的に至るべき要素がある。これがたゞ軍では以て少年兵制度を設け、幹部の中核となるべき要員は、特に年少のうちに簡潔にして、これを軍の學校に入校せしめ、戦場の要求に即應する深刻徹底的な教育を施し、以て必勝の幹部たらしむべく育成しつゝある。しかしして本制度は創設以來、指導宜しきを得たると、よく本務を自覚せる青少年の熱烈真剣なる修練研鑽により成果大いに擧り、今次大東亞戦争の慘然たる戦果を獲得した一素因をなしてをり、前途に更に大なる期待が懸けられてゐる。

次に少年兵とはその名稱の示す如く、十五、六歳より近くも二十歳までの純真澄烈たる少年を採用し、各、將來の用所により航空、戦車、通信、防空、砲兵、重砲及び兵技等に分れ、それ／＼陸軍少年兵學校、陸軍少年戦車兵學校、陸軍少年通信兵學校、陸軍防空學校、陸軍野砲兵學校、陸軍重砲兵學校、或ひは陸軍兵器學校において約二年乃至三年の教育を受け、いはゆる少年兵、或ひは直ちに現役下士官として第一線の各部隊に配當せられるのであつて、大東亞戦争開始以來、群がる敵機の中に入人して華々しき空軍中戦に、或ひは航空萬里の爆撃行に、はたまた大戦中戦等において種々たる戦果を擧げて敵陣を寒からしむると共に、少年兵の眞價を發揮してゐるのである。

西の野戦の精進が實功について解説で一べんに再考される野戦の精進。組立作業に呼吸を一つたり合つて、どん／＼進められる。さあ修理ももも収められた。分解修理を返へた野戦の組立。

内燃機隔の吸入排気管のすき合せ。ピタリと密着させるため生徒達は一心に作業をつまづかぬ。

いまや少年兵は國軍活動の中核をなす、これら要員の良否は直ちに軍の強弱に影響するところ甚大である。軍はこの決戦段階にあたり、無類無類ゆるが如き盡忠報國の至情を抱ける優秀な青少年諸君が多數少年兵となり、大東亞戦争完勝のため奮闘せられんことを切望する次第である。

陸軍少年兵學校案内

少年兵學校はそれ／＼の専門に應じて部隊内の優秀な幹部を養成するの目的なのですが、それを志す少年たちのため、だいたいの募集要項やその將來などをみてみることにしましょう。まづ學校の所在地は

- 陸軍少年飛行兵學校 東京都立川市 滋賀縣大津町
- 陸軍少年戦車兵學校 靜岡縣富士郡上井川村
- 陸軍少年通信兵學校 東京都北多摩郡東村山町 新潟縣中津原郡岩村町
- 陸軍野砲兵學校 千葉縣四街道
- 陸軍重砲兵學校 神奈川縣浦賀町

陸軍少年兵の進一途



陸軍少年兵の進一途
 陸軍少年兵の進一途
 陸軍少年兵の進一途



千葉陸軍防空学校
 陸軍兵器學校
 陸軍少年兵の進一途



富士は今日も自分たちの旗を掲げ
 谷を越え、巨木をよぶ。



少年兵の進一途
 少年兵の進一途



陸軍幼年学校案内
 陸軍幼年学校案内



下志津原の一角に、測遠機をならむ少年兵のきびしい姿がある。陸軍野戦砲兵学校の少年兵である。この学校では、軍が将来の砲兵幹部の養成を目的として、優秀なる少年に砲兵として必要な知識と訓練をあたへてゐる。その特殊教科目としては、測遠機による距離測定や、普照標定および官制撮影などが、ここできびしい訓練を受けた少年兵は、わが皇軍砲兵陣の正確無比な砲撃の目となり耳となるのだ。この科学的な少年兵の操業があればこそ、ブキテマの高地も陥した。そのほか大東亞戦争において幾多の偉功を立てた砲兵部隊の中には、こゝ出身の先達たちが多数あることはいふまでもない。



火砲の操作演習。少年兵の特徴は主として科学的訓練にある。この距離測定は測遠機によりなされ、火砲を正確な射撃にみちびく。



精進な官制機で遠距離の敵陣を撮影した。空中写真で敵陣の状況を判別し、これら少年兵の重要な任務である。



測遠機をならむ少年兵の眼はきびしく光る。巨大な砲身へは、砲撃の準備がはかまされ、一瞬後に敵陣へ巨砲のお見舞い。



精進な陸軍少年兵





互に敵艦をねらつてびたりと照準された。「射て」の命令を待つ少年重砲兵の全身は緊張に震く。重砲法の訓練は本土防衛の意氣に燃えてつゞけられてゐる

精進の陸軍少年兵

★ 名懸三保の松原にほど近い陸軍砲兵学校三分教所に孜々として



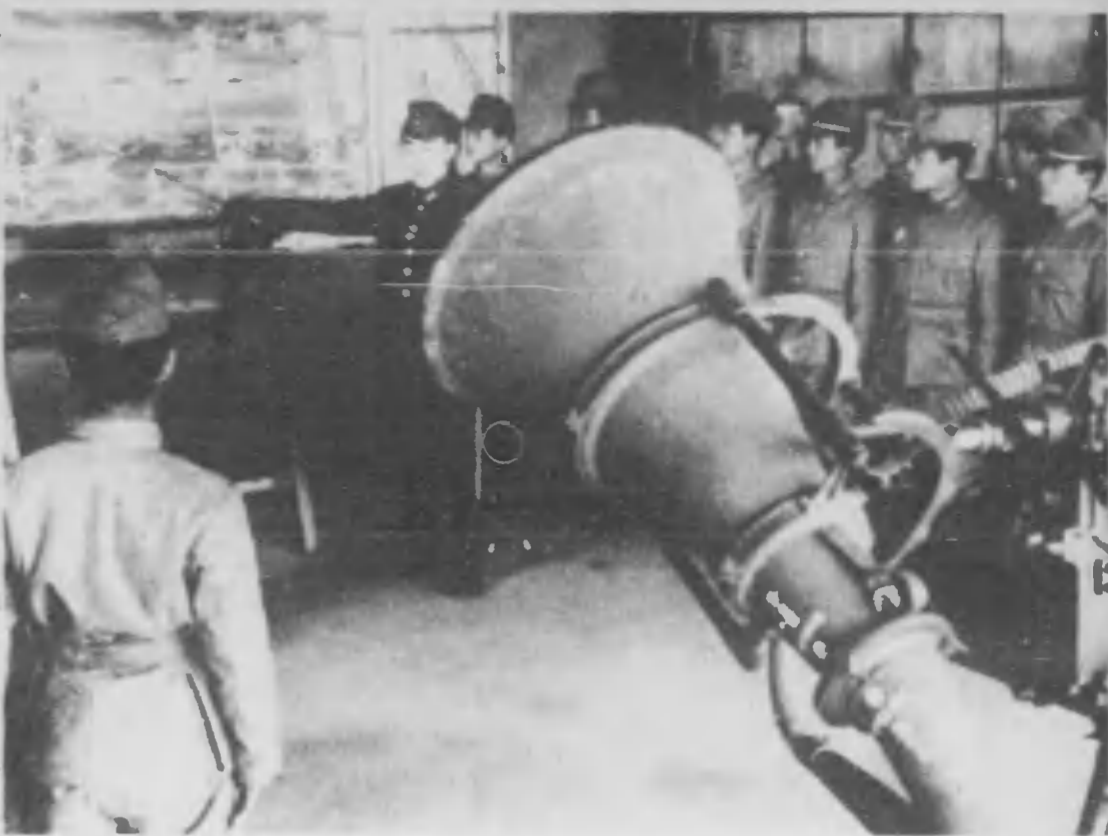
もてゐる陸軍砲兵学校の少年兵。州を襲ふ艦隊に砲撃の火蓋を切る青い制服、その猛撃の姿に磨き上げられた少年重砲兵の重大な任務がかくされてゐる。日夜不眠に働かれた監視の眼をさすめて、自動する装置の音響を聴取し、或は音響を利用して捜索発見し、その位置行動を通報するのその任務なのだ。この水中と、探れし音響の距離、感度、土質の重大任務なのだ。

水中音響の把手を握り、目録をじつと見ながら、全身を耳に集中させて、音響の音響を聴取し、その位置行動を通報するのその任務なのだ。この水中と、探れし音響の距離、感度、土質の重大任務なのだ。





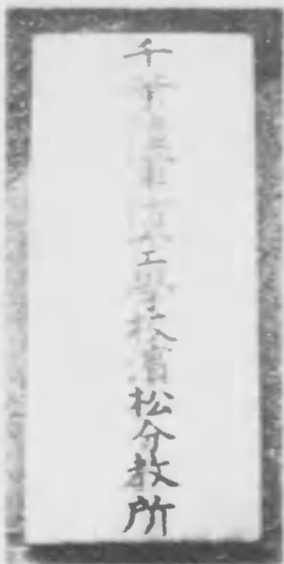
⇨ 防空隊の準備演習はかなりむづかしい。敵機や物理をみにつちり敵へられ
た少年兵は、えらばれたほりをもつて、たちどころにこなし自分のも
のとしてゆく



⇨ ちの科学的頭腦にとらへられた敵機は、次の瞬間、わ
が高射砲陣地の前に無残なる白煙を曳いておちてゐる
であらう

↑ きこえる、敵機だ！ 敵くときすまされた少年兵の
耳は、砲音機の中の銃の羽音さへききもらさぬ
漆黒の闇に乗じて、敵機は我に臨むかゝる。しかし少
年兵にはとくに機も遠慮も手にとるやうにはつき
りと判つてゐたのだ。もうこつちのものだ。うて！
うて！

兵年少軍陸の途一進精



妖雲漢々として敵はいまや南より、北より本土をね
らふ。防空学校少年兵たちの眞面目が、いよいよ發揮
される時は迫つた。敵機よ來らば來れ！ 一年半の在
學期間は短い、内容は十年の教育にも値する猛訓練
で充されてゐるのだ。高度の測定も一瞬だ。夜間や霧
間にかくれて迫る敵機も、みがきにみかいた空中監視
の訓練の前には逃げおほせることはできない。少年兵

⇨ 高射砲の操作演習で訓練した隊には、たちどころにすべてが判
れる。敵機は火を噴いて落ちるのだ



⇨ 防空火砲の操作訓練は隊員の男士に親切に指導される。やがてこの砲で、
この砲で、ニューギニアの、ビルマ陣地の敵機をうちおとしつづけるぞ



精選の陸軍少年兵

陸軍少年通信兵学校

海空地一機となつて展開される近代戦指揮官の命令一丁直ちに全軍の末端までが、一瞬のうちに行動にうつる機動の妙こそは全軍の神経系統ともいふべき通信連絡の迅速、正確によつて發揮されるのだ武蔵野の風光に包まれた東京陸軍少年通信兵学校、北越新河の村松陸軍少年通信兵学校、そこに今、軍の神経系統たるべき生徒達が一ヶ年半の修業年間に少年獨特の鋭敏な感覚をより鋭くしようと通信修技に、器材の實習に教練にと懸命に磨きをかけてゐる

教官の打つてくる音を一音も間違ふまいと、教室での受信練習は真剣だ



↑ 北京へ 自分の手から電波となつて飛ぶ通信兵のよろこびがひそんでゐるのだ

機甲兵は低装束された野戦にひそんで別々の戦闘機を無電線の機をもつて機牛につたへつづける



★表紙

少年飛行兵はつくり笑つてゐる。風にも嵐にもめげず、強く逞しく青つたこの若者は、南海の空を縦横に駆け、敵機と一騎討ち、いや、群がる敵機へまっしぐら、見事隊長機を仕止めてゐる。機倉若武者にも似た健気な魂々しいこの兄さんが、國難だ。君たちも空に飛べよ」とヨイコを呼んでゐる

南太平洋〇〇基地 撮影 木下陸軍報道班員



大東亞戦争漫画日誌

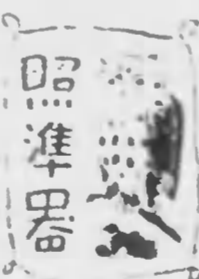
石川 進介

□ 撃ちてしまふまでも

敵機が内南洋の入口を破らんとしてこの鬼をこらすはただ飛行機の増産のみ

□ カラ手形に釣られて

敵機は一決大戦に切りこむとインテキ証文をふりまはし、油のきれかよつた海軍をけしかける



□ 船上要

石川 進介

ピツクリ仰天したつきり血が顔から下がらぬ。大變だ、大變だと騒ぐより、今日の増産で勝利を招か

□ 一位が時来たる時

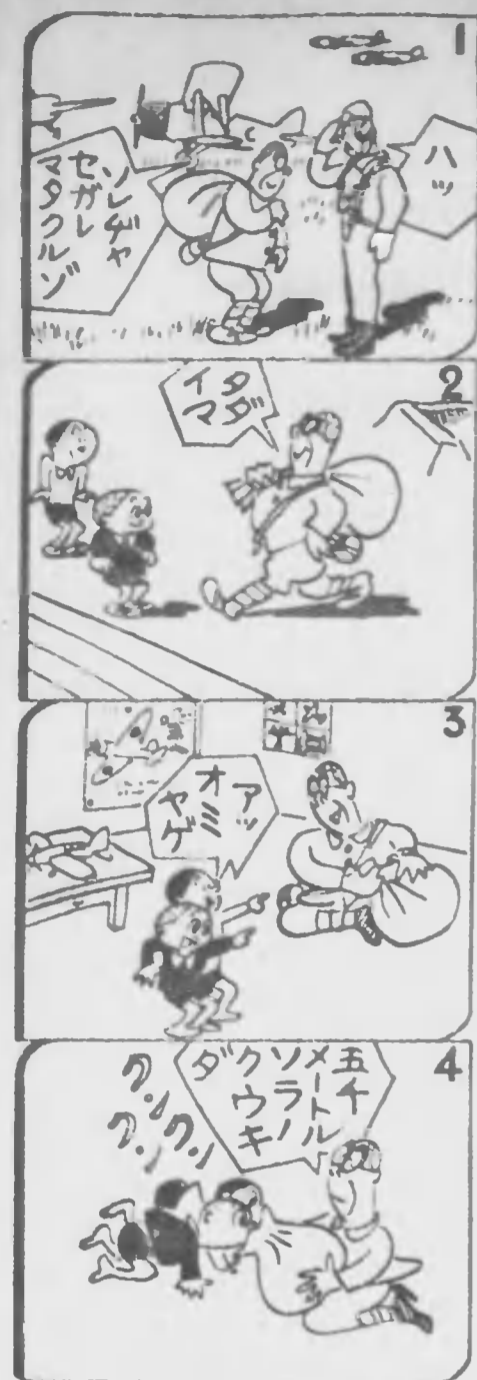
利根 義夫

米艦來たる、南より來たる。今こそ、一位が陣にぶちこんだ「撃ちてしまふ」を研ぎすませ

□ 無關心型

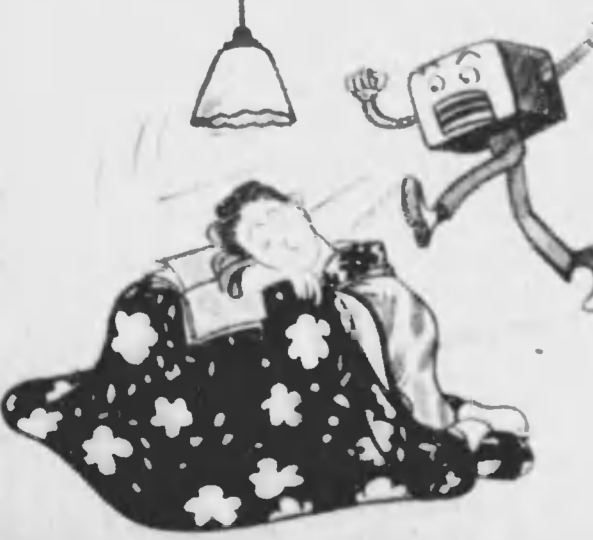
何をきいても右から左へつづぬけ。そのくせ目の前に敵が現はれやうものなら、大あはて

和洋混血兄弟 横山隆一 (五)



□ 二重二重型

がつかりして、しよけにみ何も手につかぬ。撃つて敵は攻勢をゆるめはせぬ。遊んで撃つ場合が敵を退治ふのだ



一冊で
能率あげよ
勝つ
貯金



戦力になる貯金です

通帳の無駄を一掃しませう

通帳の数を少くして預け高をどんく殖やすことが戦力増強へ二重の御奉公です

通帳の数より額だ貯蓄戦

一冊の通帳も大切な資料です
新しく預入申込をするときは古い通帳がないかよく調べてからにませう

一冊で紙、人、時の無駄省け

通帳を何冊にも分けて預けるのは無駄です

据置貯金など二冊以上で預けてある場合は期間の永い方へ合併して一冊で預けませう

十冊に勝つ一冊の預け高

一ヶ月に何回も預けるのは通帳の壽命を短くします

少額の貯金は家庭で貯金函を利用して月一回位に纏めて預けませう

日に蓄めて月に纏めて窓口へ

通信院貯金保険局

寫眞週報
無断転載

昭和十九年八月十日
印刷局

東京印刷局
印刷局

定 價
一部十銭
（送料別）
外埠郵送は
其の都度郵代
を申し添えて
受けます

申 込 所
全国各地支店
郵便局及部
書店・洋書店
新聞販賣店

本誌掲載の寫真中、
撮影者及び提供者は
特許法に基いて、
複製を禁ずるものと
し、また、海軍省の
製は海軍省の複製
を禁ずるものと
し、複製を禁ずる
ものとす

本誌を回覧に
本誌を、購読や贈
りなど、出
来るだけ有効に御利
用下さい

前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問
送ります。送料は
内地と同様で封封
もひは開封にして第
二部と明記すれば
一部一銭です

印刷局印刷發行